2024.SPRING
令和6年/春号
vol.138

ほっかいどう福祉だより【しあわせ】

SHIAWASE

特集

福祉現場でのICT活用術
～利用者と職員のしあわせのために～

MY WORK

設立60周年
小樽四ツ葉学園

Discover Hokkaido

愛を込めて生み出す
幸せのガラス

INFORMATION

福祉職場説明会
開催

くるふし

ICT化は目的ではなく手段 利用者と職員の幸せのために

近年、福祉の現場では情報通信技術の導入（ICT化）が進んでいます。南幌みどり苑は北海道ではその先駆者的な存在。積極的にICTを導入してきました。ICT化によって施設はどのような機器をどう使っているのか、利用者の方の暮らしや職員の働き方はどう変わったのかお話を伺いました。

日々の負担をICTで軽減

職員は全員インカム（無線通信機器）とスマートフォンを装備し、利用者の方々に話しかけケアをする一方、インカムで職員同士連絡を取り、スマホの画面をチェックしています。南幌みどり苑がICT化に取り組み始めたのは2020年。今ではもうなくてはならないツールになっています。

南幌みどり苑は1984年開設。介護老人福祉施設をはじめ、短期入所生活介護事業、通所介護事業、居宅介護支援事業を行っています。多床室中心の施設でL字型の平屋の建物は約80㍍と横に長く死角も多いために、ナースコールを受けて居室を訪れるのに時間がかかったり、急いで行ってもすでに別の職員が対応していたりと、効率の悪さに悩まされてきました。

これを解決するために導入したのがインカムです。職員同士がインカムで連絡を取り合うことで、誰がどこにいるか、誰が利用者の対応をするかを把握し、スムーズな動きができるようになりました。また、離れていても薬のダブルチェックをしたり、困ったときに相談したり助けを呼んだりできるので安心感が増し、明らかに作業効率が上がったそう。「インカムによって、介護ICT機器が私たちが目指す施設づくりのツールになると確信しました。2021年に全国老人福祉施設協議会（東京）のICT実証事業モデルに選定され、導入を加速させました」と施設長の佐久間竜太さんは話します。

インカムに続いて「パナソニック・ライフレンズ」「バイオシルバー・アアムス」を設置しました。これはベッドに装着するシートセンサーで、体動や呼吸・心拍レベルをリアルタイムで検知・確認できるシステム。夜間に目覚めたり離床するなどの異常を検知すると、モニター画面とスマートフォンに通知します。また、ナースコールが鳴ったときも、訪室する前に部屋に設置したカメラで状況を確認できるので、ケアの必要性や対応の優先順位が即時判断できます。不要な訪室が減り、利用者の安眠を妨げず、職員の負担軽減にもつながりました。また、睡眠状態、離着床、アラート履歴は自動的に保存されるので、一人一人の生活リズムや行動パターンなど、それまで見えなかったものがデータとして見えるようになりました。その結果、医師と連携し適切なアドバイスや処置を受けることが可能になりました。

館内のモニターで居室の様子や利用者の睡眠状況やバイタルを見ることができます

ICT化を推し進めてきた佐久間竜太施設長

ナースコールは新たに「ココヘルパG」を設置しました。従来のナースコールは回線が1つしかなかったので、1つの通知を停止するまで他の通知を確認できず、複数の通知が来たときは親機のある介護員室に行って確認する必要がありました。また居室名しか通知されず、誰が呼んでいるのか訪室しないと分かりませんでしたが、設置後は呼んだ人が特定でき、複数のナースコールの同時通知が可能に。さらにライフレンズとアアムスと連携して、居室の映像、呼吸数・心拍数などの状況がスマートフォンで即時に確認でき、スピーディーで効率の良い対応ができるようになりました。

スマホからもカメラ映像やバイタルチェックができます

道内各地の施設からの視察を受け入れ、事業について説明しています

効率化は利用者と職員の幸せのため

ICT化の効果が最も現れたのは夜間です。南幌みどり苑は3人体制で3棟をカバーしているのですが、ICT化によって夜間の定期巡回以外の訪室回数は2カ月で56・5％減少、平均歩数は14・9％減少しました。また、夜間の排泄介助に要する時間も21・7％短縮されました。ピンポイントに適切な介助ができるようになったことを数字が証明しています。

「やるべきことが多すぎて、業務をこなすことで精一杯という感じでしたが、ICT化によって時間に余裕ができて、利用者さん一人一人に向き合い、会話の時間が増えました。職員同士の連携やカメラによる見守りができて、心の余裕と安心感もあります。」と介護主任の関谷風磨さんは手応えを感じています。「まだ機能を最大限に引き出せているわけではありませんが、利用者にとっては快適な、職員にとっては安心と効率の良い環境が実現し、思い描いた効果は十分得られているととらえています。機器の習熟度が高まればさらに効果が期待できると考えています。」と佐久間施設長は話します。

インカムとスマートフォンは仕事に欠かせないアイテムです

ICT化の目的を明確に持つ

「ですが、やみくもにICT化を進めようとしてもうまくいきません。大切なのは目的を明確にして、それに合うICTを導入することです」と力を込めます。

南幌みどり苑では〝距離から来る課題を克服したい〟という目標があり、それを達成できるツールを考えた結果、ICT化を進めました。施設それぞれ抱える問題があり、それを解決する方法は施設によって異なります。限られた予算内で何を導入し、どう使うかという施設が目指す姿を思い描き、ICT化を推進することが求められます。

特別養護老人ホーム
南幌みどり苑
南幌町元町2丁目2番2号
011-378-1556
https://www.n-fukushikai.or.jp

1984年開設。介護老人福祉施設をはじめ、短期入所生活介護事業、通所介護事業、居宅介護支援事業を行っています。3月に館内をリニューアル。機能的で美しく生まれ変わりました。

MY WORK

利用者さんの笑顔が何よりの喜び
日本初の民間知的障がい者施設

小樽市郊外の住宅地、景色の良い高台にある小樽四ツ葉学園は今年設立60周年を迎えます。日本初の民営の知的障がい者施設として、全国に先駆けた取り組みを行ってきた学園の歩みと、ここで働く若きスタッフを紹介します。

音楽療法はさまざまな年代の方が参加して楽しみます

「親亡き後」を考えて

小樽四ツ葉学園は、1964年に事業を開始した、全国でも初めての民営の知的障がい者通所施設です。10年後に入所施設も開設。1994年には短期入所、2000年にはグループホーム開設など、事業の幅を広げてきました。通所と入所が一体化している施設は全国的にも珍しく、通所者と入所者が共に活動しています。

開設のきっかけは、年齢により公営の知的障がい者施設を退所した子どもの受け皿を作りたいという家族の方の思いです。親がいなくなった後も子どもが安心して生活できる環境を整えたいと、家族が中心となって学園を設立しました。当時は職員と利用者が協力し合って、養鶏や養豚を行って運営費を賄うなど苦労することも多かったとのことですが、開所以来「親亡き後」ということを家族と共に考え、現在に至っています。

地域と関わり、やりがいを感じる

現在の通所者は77人。入所者は54人、グループホームでは8棟に28人が暮らしています。利用者の多くは40代後半以上。小樽を中心に、札幌から通所する人もいます。支援区分は4以上の重度の方が多く、障がいの度合いに合わせて手芸品や籐細工、ビーズ作品作り、原木椎茸や花苗・野菜の栽培など、屋内外でさまざまな活動を行っています。ハンドメイド作品は施設の入り口にコーナーを設けて販売したり、野菜は三升漬けなど加工品にしてイベントなどで販売もしています。対価は年度末に利用者に支払われ、やりがいにつながっています。

地域との関わりにも積極的で、ネクスコ東日本とコラボし「高福連携」事業と名付けて高速道路の朝里インター改修工事入口の花壇の整備、緑地の清掃などを行っています。新型コロナの影響で現在まで自粛や縮小を余儀なくされていますが、施設の敷地内で花苗や野菜苗を販売したり、地域のお祭りや花火大会に出店したりして地域の人々と交流しています。

さまざまな作品が展示・販売されています

利用者を見守り、必要に応じてサポートを行う佐藤さん

レクや行事を楽しみ 体力維持

高齢者が多いため、体を楽しく動かして体力を維持するための活動にも力を入れています。ジャズダンスやストレッチ、音楽療法、化粧療法など、定期的に外部講師を招いて実施。特に音楽療法は人気のコンテンツで、講師の伴奏に合わせて一人一人ができる範囲で歌を歌ったりリズムを取ったり手拍子をしたりして盛り上がり、参加者の顔に笑顔が浮かびます。

また、運動会やクリスマス会、焼き肉パーティー、ひな祭りなど季節ごとに行事を開いて交流を深めています。しかし、生活支援員の佐藤亜弥香さんは「新型コロナの影響で今はできないイベントがたくさんあり、利用者さんに楽しんでいただく機会が減りました。」と話します。

生活支援員の道へ

佐藤さんは小樽市出身。学園に就職して6年目で、最年少の職員です。学生時代は保育士を目指して、資格を取るために学園で実習を受けました。「実習先は自分で探さなくてはいけなくて、調べて最初に問い合わせたのがここでした。実習を体験してみて、子ども相手の仕事より自分に向いていると感じました。」と佐藤さん。2回実習を受け保育士の資格を取得しましたが、保育園や幼稚園への就職活動はせずに、そのまま学園に就職しました。

佐藤亜弥香さん。生活支援員として学園に就職して6年目。保育士の資格を生かし日々の仕事に取り組んでいる

仕事は食事やトイレ、着替えなど日常生活全般の介助。一人一人に付き添ってシール貼りやピン差しなどリハビリのサポートもします。重度の方にはきめ細かな声かけや目配りも欠かせません。

「障がいを持つ子どもに対しての保育は学びましたが、それが生かせないことが多くて戸惑いました。利用者さんの性格や障がいに合わせなくては！と、気にかけすぎてしまったあまり『佐藤さん（の介助）じゃなきゃダメ』と言われてしまうこともありました。職員全員がチームとなって働いているわけですから、特定の職員に思い入れを持たれるような仕事をしてはいけないと反省したのを覚えています。利用者さんは感情がストレートで、何に怒っているのか分からないときや、対応ひとつで心を閉ざしてしまったりするときもあります。でも心を開いてくれた瞬間や喜んでくれたときの笑顔は大きなやりがいです。安全にケガなく楽しく過ごせるように適度な距離感でサポートすることを心がけています。」と佐藤さん。毎日イレギュラーなことが起こりますが、今はそれすらも楽しみ、利用者さんとの会話を楽しみ、笑顔で仕事に打ち込んでいます。

利用者さんの笑顔のために

新型コロナは福祉業界にも深刻なダメージを与えました。最後に佐藤さんに思うことを語っていただきました。

「新型コロナによって、多くのことが制限されました。クラスターの恐怖にさらされ、人が集まることや活動は自粛や縮小。集まって何かしたり、旅行などの体験をしたりする機会が減り、今もまだコロナ前に戻ってはいません。楽しみが限られてしまったので利用者さんの笑顔も減ったと感じますし、動く機会が減ったので体力の低下も心配です。自分に何ができるか分かりませんが、笑顔あふれる環境を復活させたいです。そして福祉の世界に人がもっと入って活気づけてもらいたいです。若い後輩が欲しいです。」

社会福祉法人
小樽四ツ葉学園
小樽市桜3丁目10-1
TEL.0134-54-7404
https://otaru-yotsuba.or.jp

Discover Hokkaido
北海道ものづくり
OTARU

愛を込めて生み出す 幸せのガラス

ガラス作家　木村 幸愛さん

小樽市郊外の海を見下ろす小高い丘に佇む吹きガラス工房。
ガラスの世界に魅了されて故郷を離れて移り住み、
ガラス作家として活動する木村幸愛さんにものづくりのお話を伺いました。

木村 幸愛（きむら ゆきえ）
大阪府出身。ガラス作家。小樽市のガラス工房、
大阪市のガラス教育施設、横浜市の個人工房などで修行。
2010年に独立し「幸愛硝子」を設立。夫と子ども、愛犬ざらめと暮らす。

幸愛硝子 小さな森のなか
小樽市桜2丁目20-4 ※ギャラリーは要予約
（オンラインストアの問い合わせフォームで受付）

ガラスに導かれた人生

木村さんは大阪府出身。高校生の頃に旅行で訪れた小樽で吹きガラスに出合いました。工房で職人の仕事ぶりに感動し、自分でも吹きガラスを体験して難しさを実感しました。これが後の人生を変えることになったといいます。

高校卒業後は建築会社で設計の仕事に就きましたが、パソコンの画面上ではなく、自分の手で実際に物をつくりたいという思うようになりました。そんなとき、ふと小樽での体験を思い出し、ガラス職人になろうと決心。単身小樽に移住し、知人の紹介で地元のガラス工房に入りました。2年間職人の世界でもまれて修行し、一度大阪に戻り、市のガラス教育施設で先輩の指導のもと、アシスタントインストラクターを経験しました。

「小樽では誰も教えてくれず、訳も分からず言われたことをやるだけという感じで精神的にかなりきつかったですが、大阪で初めて基礎から順序立てて学ぶことで、今までやってきたことの意味が理解でき、1人で最後まで作れるようになりました。ガラス職人としてスタートラインに立てたという気持ちでした」と当時を振り返ります。

その後、横浜と東京の工房でも修行し、2010年に独立。夫の貴大さんの地元である小樽で工房「幸愛硝子」を設立しました。2016年に現在の場所に移転。広々とした工房と作品を展示するギャラリーを併設した「幸愛硝子　小さな森のなか」を開き、創作活動に打ち込んでいます。食器、アクセサリー、花瓶、オブジェなどさまざまな作品が飾られたギャラリーは宝石箱に入り込んだよう。同じデザインでも1つずつ色のニュアンスが違って見飽きることがありません。ピンクや黄色、紫などさまざまな色が溶け合い、夢のような美しさの作品の数々は、見ていると不思議と心が温かく、幸せな気持ちになります。

竿をクルクル回しながら鮮やかな手つきで形を整えていきます。

チョークのような色ガラス。
微妙な色合いで数多く揃えています。

クリスタルガラスにさまざまな
色ガラスを付けて成形していきます。

ギャラリーにはたくさんの作品があり
陽の光を受けてキラキラ輝きます。

心ときめくガラスの世界

木村さんは最高級のクリスタルガラスをベースに色ガラスを組み合わせて「宙吹き（ちゅうぶき）」という技法で作品をつくっています。長い竿にガラスを巻き付け、吹いて膨らませることをくり返し、鮮やかな手つきでガラスを自由自在に操り、作品を仕上げていきます。

ひとつの作品にたくさんの色を使うのが幸愛硝子の特徴。色ガラスは青は柔らかく赤は固いなど、色によって性質は異なり、使う色数が増えるとそれだけ成形が難しくなってくるので失敗することも多く、色の組み合わせは試行錯誤を繰り返しました。

「カラフルなものが好きなので、色の使い方にこだわっています。色ガラスは国内はもちろん、ドイツやニュージーランドなど外国からも取り寄せます。優しい色合いの中に奥行きと深みを表現したくて、今も日々研究しています。自分の心がときめくものを作っているので、それを気に入っていただけたときが一番嬉しい。幸せをお客様と共有できたような気持ちになります。」と木村さんは話します。

作品に思いを閉じ込める

木村さんは外部の影響を受けず、自分の思いがこもったガラスを作るために、他の作家の作品はあえて見ないようにしているそう。その代わり、小樽の風景からインスピレーションを得て作品を作ることを心がけています。工房から見える海や空の色、木々の緑、雪景色、街並み…ここに住んでいるからこそ出せる色や世界観があるといいます。また、好きな音楽をイメージした作品を作ることもあり、曲名が作品名になっているものも多いそう。工房の棚にはレコードがぎっしり。仕事中は常に音楽をかけています。

「自分が使いたいと思うもの、好きなものを追求しています。作りたいものやアイディアはいっぱいありますが、成形や配色を完全にコントロールすることはできません。想像を超えるものが偶然できたり、毎日のように新たな発見があり奥が深い世界です。作品には、手にする人が幸せや笑顔になれるよう思いを込めています。」

木村さんの作品はどれも女性らしい美しさや可愛らしさ、華やかさにあふれていて、木村さんの明るくてキュートな人柄がそのまま作品に表れているよう。ギャラリーは要予約で木村さん自ら案内をしてくれます。幸せと愛にあふれるガラスを見に足を運んでみては。

俳優の本木雅弘さんが単身
訪ねてきたことがあり、
工房にサインが飾らています

小樽立ち寄りグルメ

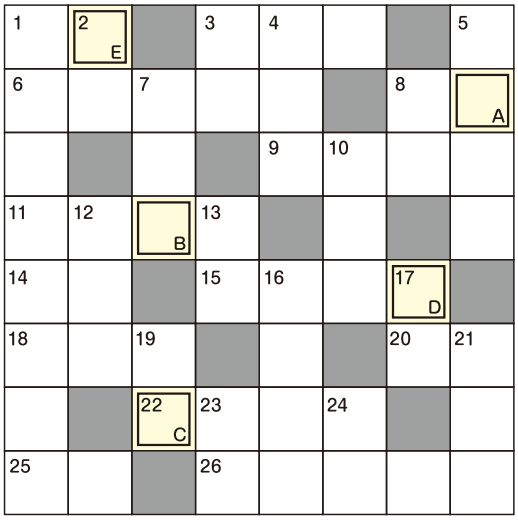
うどんのしろ
北海道産小麦を使ったコシの強い手打ちうどんと
透き通った優しい出汁が楽しめる。
サクふわの鳥天もおすすめ。
小樽市花園3丁目2-13　TEL.090-8898-2643
11:00～14:00、17:00～21:00（ラストオーダー各30分前）
水曜、第2・第4木曜定休

アンデリス
道内初のプリン専門店。小樽を中心に道産食材で
作るプリンはまろやかで味わい深い。
1番人気は「プリン大福」。
小樽市住ノ江1丁目5-1　TEL.0134-34-1616
10:00～売り切れ次第終了　水曜定休（他不定休あり）

スイート&ブレッド
JR小樽築港駅前の小さなベーカリー。
道産小麦を使用して手作りするパンは
幅広い年代に支持される優しい味。
小樽市若竹町13-111　TEL.0134-23-6034
9:00～19:00（日曜・祝日は～17:00）月曜定休

SHIAWASE クロスワード

Q.二重マスA～Eでできる言葉は何でしょう？



[タテのカギ]

1 年を取らず長生きする意味の四字熟語
2 ○○をつかむとは、何もつかめないこと
3 ことわざ。○○に交われば赤くなる
4 特養の「養」は何の略？
5 すき焼きの具材になる細いこんにゃく
7 休暇などを利用して故郷へ帰ること
8 トビウオの別名
10 現在の厚生労働大臣は○○○敬三氏
12 太平洋にも日本海にも面する唯一の町
13 ことわざ。○○多くして功少なし
16 「東雲」を何と読む？
17 その日に支払わず店の帳簿に
19 ○○をかいて、相手を出し抜く
21 二人以上でぴたりと、○○○の呼吸
23 焼鳥を食べたあとに残ります
24 餅つきのキネの相棒

[ヨコのカギ]

1 節分では内へ招き入れます
3 生活の基本の三要素、衣○○○住
6 テニスは庭球、バスケットボールは？
8 魚の身以外の骨や頭など
9 紛糾しもめること
11 たとえば、赤と緑を混ぜるとこの色に
14 子どもがかわいいあまり、親の○○目
15 草木も眠る○○○○時
18 ダウンジャケットの「ダウン」って？
20 介護支援専門員は○○マネージャー
22 牛などの乳製品を製造する○○○○家
25 「柚子」と書く柑橘系
26 「福祉」の二字に共通する部首

こたえ

A	B	C	D	E

作：石田竹久

「カッティングボード」を20名様にプレゼント！

カバとウォールナットの無垢板の色合いを生かしたカッティングボードは、長さ32×幅15×厚さ1.5cmと手ごろなサイズ。まな板としてはもちろん、そのまま食材を乗せるトレーとしても使えます。ご自宅やキャンプなど様々なシーンでお使いいただける、シンプルで使い勝手の良いデザインです。
（社福）厚生協会わかふじ寮（上川郡新得町）が製作しました。
お問い合わせは「わかふじ寮」、電話(0156)64-5001へ。

※「冬（1月）号の答えは「リュウヒョウ」でした。
当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

応募のきまり

締め切り:2024年5月31日(金)23:59
応募方法:右の二次元コードよりご応募ください。
ハガキの場合は①クロスワードの答え②郵便番号③住所④氏名(フリガナ)⑤性別⑥年齢⑦電話番号⑧お勤め先⑨本紙の感想を明記の上、
〒060-0001　札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1･7(4階)　北海道民間社会福祉事業職員共済会「しあわせ」係までご応募ください。
※皆さまから寄せられたご感想などは本紙に掲載させていただく場合があります。掲載された方には「しあわせ」オリジナルグッズをプレゼントします。

読者さんからのお便り Voices

冬号（137号）を読んで

ほのぼのとしたあたたかい雰囲気の表紙が目を引き、公共施設で手に取りました。職員インタビューで紹介されていたお二人の仕事に対する思いがとても素晴らしく、印象に残りました。
（釧路市･Yさん）

「わが施設の人気の一品 自慢の逸品」のほほえみ作業所の活動を読んで、楽しく通所しコミュニケーションが取れているのがすごく伝わり、ほっこりした気持ちになりました。それぞれに居場所がある、良い記事ですね。
（芦別市･Nさん）

令和6年度福祉職場説明会を開催します

福祉の職場への就職を希望される方、福祉の仕事に関心のある方等に向けて、「就労の場としての福祉職場」に関する情報提供と、実際の就労への手掛かりを提供する「福祉職場説明会」を開催します。福祉職場での就労をお考えの方・関心のある方は、お気軽に足をお運びください。

【開催日】 第1回 7月21日(日)、第2回 9月29日(日)、第3回 2025年3月2日(日)
【時　間】 10:00～15:00(受付開始9:30)
【場　所】 札幌ビューホテル大通公園（札幌市中央区大通西8丁目）
地下2階ピアリッジホール、クレストホール
【問い合わせ】 北海道社会福祉協議会 北海道福祉人材センター
(直通電話)011-272-6662
※中止･変更となる場合は、ホームページでお知らせします。

公益セミナーのご案内

道民及び本会会員を対象に階層別研修を開催します。詳細は順次ホームページにてご案内いたしますので、右の二次元コードよりご確認ください。

【開催日程(予定)】 課長向け:7月19日(金)、係長･主任向け:8月9日(金)、
入職5年未満の職員向け:9月12日(木)
【場　所】 札幌市

ほっかいどう福祉だより［しあわせ］
SHIAWASE
発行/一般社団法人 北海道民間社会福祉事業職員共済会
札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1･7　4階
TEL.011-251-3828(代)　FAX.011-251-3848
https://www.kyousaikai-shiawase.jp　[Email] kouhou@kyousaikai-shiawase.jp

SHIAWASE vol.138　2024年4月30日発行　編集：㈱北海道新聞HotMedia　印刷：メディック株式会社